

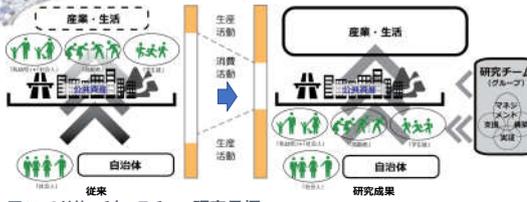
BaSSプロジェクト

全国10自治体との共同研究「BaSSプロジェクト」とは？

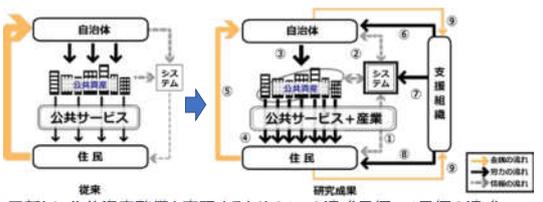
前橋工科大学工学部建築学科堤研究室 〒371-0816 群馬県前橋市上佐鳥町460-1
 URL <http://rdm-lab.net/i-gene/> E-mail tutumi@maebashi-it.ac.jp
 協力自治体(市) 会津若松・前橋・鴻巣・秩父・長野・小田原・御前崎・犬山・池田・廿日市

BaSSプロジェクトの概要

BaSSプロジェクトとは、公共資産の老朽化や利用状況の評価を基に、将来世代を見据えた公共資産経営の方向を提示することで、住民や議会も含めた合意形成に繋げていく手法を開発し、多様な地域を支援するプラットフォームの構築を目指したJST/RISTEX「持続可能な多世代共創社会のデザイン」研究開発領域採用研究「地域を持続可能にする公共資産経営の支援体制の構築」です(左右)。ここではインフラに関連する内容をいくつか紹介します。



■2つのリサーチクエスチョン(研究目標)
 Q1 自治体任せではなく地域全体で公共資産整備を共創する
 Q2 地域を活性化し豊かな地域生活を実現する「公共資産(ハコモ+インフラ)」を整備・継続させる「体制」を構築できないか？
 ※生産活動の主体となる「社会人」は、自治体との取り組みに参加できていない。「学生徒」自らが公共資産整備に参加する仕組みを創設することで、「高齢者」や「社会人」からも巻き込み地域全体を生産活動の主体に転じさせる。



■新しい公共資産整備を実現するための9つの達成目標→6目標の達成
 A1 ①施設・財務情報を自治体と住民で共有②情報提供が双方向かつ大多数へ伝達③情報の一元化による効率化④ICTの活用など公共サービスを複数の手段で提供⑤公共資産整備に対する住民負が削減
 A2 ⑥政策決定の方向性・手法に関する支援と提案の実施⑦システムの継続的な保守・改善と資産情報管理に関わる収集・分析・共有作業⑧第三者の立場から専門知識・手法を提供⑨運用資金を確保する仕組みを確立

情報→便益評価と地域評価

BaSSプロジェクトでは、いわゆるハコモ(公共施設)にインフラを含めた公共資産を地域全体で整備するため、施設に関する情報を活用し、客観的な資料を基に庁内や住民への説明、そして具体的な整備計画につなげる手法について部会を立ち上げ検討しました。

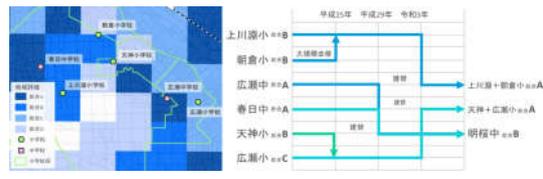
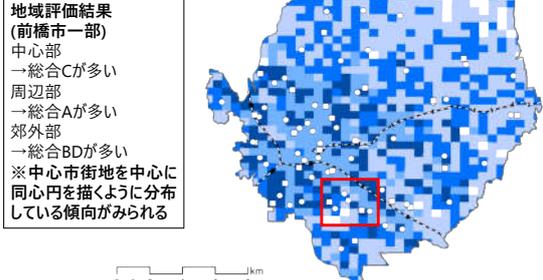
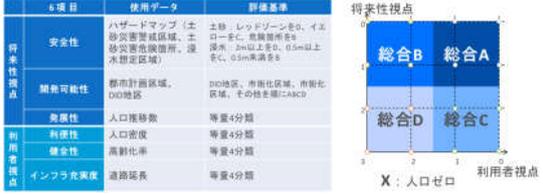
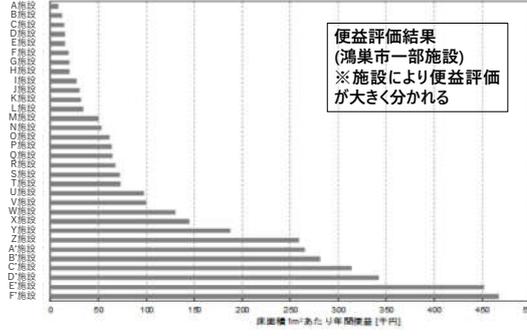
例えば鴻巣市ではアンケートを実施し、インフラ整備の際に検討される「便益評価」の概念を用いて、施設の統廃合の金銭的な効果を検証する指標を目指し、ハコモノ評価に落とし込む手法の検討を行いました(左上下)。まだ検証が不十分な段階ですが、これまで客観的な指標がなかったハコモノの整備の必要性を評価する手法が見えてきました。また一方で、複数の自治体で採用されているハコモノ(施設)評価の枠組みをインフラの評価に使う検討を行いました。しかし現状では収集できる情報量が少ないため、500mメッシュ(四方)のポテンシャルを評価し敷地選定の候補を見出す「地域評価」として活用する手法を検討しました。既以前橋市などの自治体の事例を基に検証を行い、実用性が確認されました(右上下)。今後論文等で発表予定です。

公共施設の利用に関するアンケート調査・調査結果 (表)

Q1. 施設の種類	Q2. 利用頻度	Q3. 満足度	Q4. 改善希望
公民館	毎日 10%	満足 80%	改善 10%
図書館	毎日 5%	満足 90%	改善 5%
児童館	毎日 15%	満足 75%	改善 25%
公民館	毎日 10%	満足 85%	改善 15%
図書館	毎日 8%	満足 88%	改善 12%
児童館	毎日 12%	満足 78%	改善 22%

地域評価結果 (前橋市一部)

地域	総合評価
中心部	総合Cが多い
周辺部	総合Aが多い
郊外部	総合BDが多い



情報の整理・分析→整備案策定

BaSSプロジェクトでは、施設情報や庁内検討などで得られた情報を踏まえ整備案を作成することで、具体的な課題を可視化し、施設整備を方向性を確認する一連の手法を9自治体で検討しました。そのうち4整備案を紹介します。池田市(左上)では、主に福祉施設が集まる敷地の再整備を公園や道路と一体化させた整備案を作成しました。長野市(右上)では、JR篠ノ井駅の自由通路(道路)の一部を図書館に改修し東西の地域を連携する整備案を作成しました。鴻巣市(左下)では、公民館を中心に近隣の学校そして公園や道路を一体的に活用する整備案を作成しました。御前崎市(右下)では、旧町役場の利活用に合わせて道路架け替え+公園の整備、さらに公園敷地を用いたこども園の整備案を作成しました。従来の施設整備はハコモノ単体で検討していましたが、今後は地域全体のハコモノが対象になること、さらにインフラと連携し効果的な整備を行うことが求められるでしょう。また庁内検討のためだけでなく住民ワークショップを行う際も、これらの整備案を利用することが望ましいと考えられます。BaSSプロジェクトでは、5自治体7地区(今後3地区追加の予定)で整備案を用いたワークショップを実施しました。

研究成果→シンポジウムや出版

BaSSプロジェクトの研究成果は、これまで4回のシンポジウム(右)そして2冊の著書(右)の中で分かりやすく解説しました。BaSSプロジェクト以外の事例や取り組みなども参考になるといいますので、手に取っていただければ幸いです。またご興味がある方は、堤研究室までご連絡ください。